

がんばる中小企業

19 鋳物メーカーの経営戦略

五位堂工業(本社・奈良県香芝市、社長・津田家宏氏)は1962(昭37)年の設立。創業は奈良時代にさかのぼる。本邦の鋳物の元祖の末流、正五位禁裏御用御鋳師の格式をもって代々鋳物製造業を営み、灯籠、釣鐘、鍋釜、農機具など、生活に欠かすことのできない鋳物製品を製造してきた。大和の地には現在も同社の祖先が鋳造した梵鐘など、歴史の古い鋳物が多く残されている。



津田社長

戦中には軍需品製造に従事し、戦後は工作機械・紡績機械部品製造に転換。62年に株式会社組織となつてからは、船舶用エンジン部品を中心にストレーナー部品、陸用エンジン部品、減速機部品、工作機械部品など多種多様な鋳物製品を製造している。93年からは、輸出入業務を担当する

2010年には創業の地、香芝市から御所市の工業団地に工場(葛城工場)を拡張移転し、生産能力を倍増の現在では、グループ 一方、海外調達は90%

れた最新鋭の鋳物工場(600)。製品重量期間、現地に赴き、管理工程のチェックを実施。生産比率は船舶用、品質改善に対する環境を実現している。エンジン部品が55%、処置は写真を電子メールで送り、テレビ会議

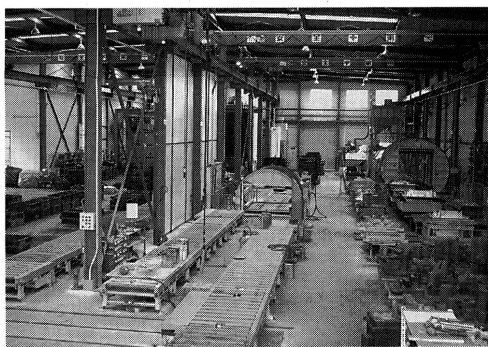
アセアン進出も検討

輸入製品 日本基準で品質保証

会社の日新テック(東大和市)と連携し、機加工・小型モジュール組立までの一貫生産体制を確立し、約40%の製品を機械加工し、先に技術を提供し、材

五位堂工業

商社・京華産業(京都)を通じて鋳物製品の海外調達を開始。現在は1炉体制で月2000テリジェント、ハイテックから年間13000(15000)の輸入を行っている。クローザー、エコロジ



工場内部は3Kイメージを払拭

スワンとなるとアセアン諸国。今年中に結論を出したい。また、「中国でも機械加工の比率を高めることもに、『世界の工場』から『世界の市場』に変わりつつある中国市場にも売り込んでいく」という。

一方、国内は「品質、納期の関係で日本では必ず日本に残る」とみているが、この先造船需要の低迷が予想されることから「全体の量は落さず、船舶関連の比率を50%60%に引き上げ、工作機械部品の新規需要を開拓していくため、営業を強化したい」という。

同社のモットーは「奉仕の精神」。歴史に培われた技術力と最新鋭の設備により、今後も多様化する需要家ニーズに的確に 대응していく方針だ。

(清水 晃)

大の特長といえよう。津田社長はいう。

「ここにきて日系企業「国際競争が進む中、生き残りをかけた鋳物の海外進出やコストダウンのための部品の海外調達の加速、造船不況、国内で造る方がいのか、海外で造る方がいいのかは今後もお客様と相談しながら対応していくことになる」

「巻く環境は大きく変わろうとしている。これはウンを追求していくのは、海外進出も考えていくべきを得ない。進出先はチャイナ・ブラ